

一般質問通告書

受領日時 令和3年 8月30日 午前 9時45分

8番 氏名 畑澤洋子

質問項目	質問の要旨
1 子供の未来を守る「弱視」の早期発見を	<p>眼鏡をかけても視力が出ない「弱視」。子供の50人に1人はいる。目のピントが合っているかを調べる屈折検査を3歳児検診で行う市区町村は全国の3割程度にとどまる。厚労省は3歳児健診での導入を全国に促し、専用機器購入費の2分の1を補助する制度を2022年度創設する。</p> <ul style="list-style-type: none">① 当町での弱視の検査法、発見数などの状況は。② 「全国の市区町村に屈折検査を促す方針」を受けて来年度の購入計画を。③ 保護者への屈折異常検査の重要性を周知、啓発を。④ 通常の学級に在籍し週に何時間か学校内の支援学級で教育を受ける児童生徒も多い。小中学校における弱視児童生徒の教育実績。現在の教育環境などに課題はないか。
2 色覚特性を持つ子供への配慮を	<p>2003年度に学校保健法が改正され色覚検査が必須で無くなり色覚検査を受けたことがない若者が多い。いざ就職時期に色覚を指摘され進路変更を余儀なくされた人も多い。2016年に学校保健安全法が一部改正。保健調査に色覚に関する項目を追加した。</p> <ul style="list-style-type: none">① 小中学校での色覚検査の実施状況と、色覚児童生徒に配慮している具体策は。
3 見守り電球で高齢者の見守りサービスを	<ul style="list-style-type: none">① 地域コミュニティ内の関係性が希薄する傾向にある中、高齢者の社会的孤立が問題になっている。緊急通報装置があっても病気で倒れて発見されるケースもあった。緊急通報システムに加えて電球点灯状態で見守る非対面型サービスを始めてはどうか。
4 安全な道づくりに街路樹管理計画の策定を	<ul style="list-style-type: none">① 小学校前の欒の木を通学の安全のため伐採した経緯がある。議員からは賛否両論様々な意見が出た。景観という利点もあるが毎年苦情の多いのも事実。街路樹管理計画を策定し管理する自治体もある。長期的な展望に立った計画と管理で安全な道づくりをしてはどうか。